

自然体験の重要性について・・・

11月20日（木）

朝の気温が3℃・4℃という日が出始めました。「感染症特にインフルエンザが大流行しています」 全校集会も放送による対応に・・・少し前の調査ですが、国立青少年教育振興機構が行った「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」によると下記のような調査結果が報告されています。主な調査結果（青少年調査から抜粋）



結果①幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高い。■幼少期から中学生期までに「動植物とのかかわり」、「地域活動」、「家事手伝い」等の体験が豊富な高校生ほど、「友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる」といった「共生感」、「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」といった「人間関係能力」が高い。

結果②体験が豊富な子どもほど、携帯電話を持っている・読む本の冊数が多い、という割合が高い。また、コンピューターゲームやテレビゲーム遊びをしない、という割合が高い。■幼少期から現在までの体験が豊富な子どもほど、携帯電話を所持する割合が高く、1ヶ月に読む本の冊数が多くなる傾向がみられる。■幼少期から現在までの体験が豊富な子どもほど、コンピューターゲームやテレビゲーム等のゲーム遊びの頻度が少ないという傾向がみられる。

結果③小学校低学年までは友達や動植物とのかかわり、小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切。■高校2年生の結果から、各年齢期において「体験の力」とより関係している体験は以下のとおりである。・小学校低学年までは「友だちとの遊び」「動植物とのかかわり」等・小学校高学年から中学校までは「地域活動」や「家事手伝い」、「家族行事」、「自然体験」等

